

非常中国

コロナの時代をどう生き延びるか 武漢市民から学ぶ

浦松丈二・中国総局長

2020年4月11日



3月下旬から外出規制が段階的に緩和された武漢市の繁華街でマスクをつけたままハグする市民＝4月4日撮影、武漢市民提供

何日ぶりに会えたのだろうか。中国湖北省武漢の繁華街で、マスクをしたままハグするカップルを、通行人たちが温かく見守っていた。世界で初めて新型コロナウイルスによる感染爆発が起きた武漢市の都市封鎖（ロックダウン）が8日に解除された。

人口1100万人の大都市・武漢は1月23日から空港や鉄道駅が閉鎖され、市民の外出が厳しく制限された。同市の累計感染者は約5万人、死者は2500人以上に達している。隔離された家族を見舞うことも、大切な人が遺体になっても触れることもできない悲劇が繰り返された。

私たちは武漢の経験から何を学べばいいのか。中国の通信アプリ・ウィーチャットを通じて寄稿してもらった小学4年生から58歳まで武漢市民10人の体験をその背景と共に紹介する。

正しい情報を入手する

寄稿の多くは封鎖直後のパニック状態から書き起こされている。大学生の女性（22）は「恐怖の感情を抑えることができなかった。ニュースを見て、その日の感染者と死亡者の人数を確認していた」と振り返る。

民間企業勤務の女性（28）は「（武漢だけでなく）湖北省内や他省でも次々と都市が封鎖され、焦りと恐怖で胸がいっぱいになった」「新型コ

突然の封鎖がパニックを引き起こしたようだ。自営業の男性（27）は封鎖2日前でも「満席のレストランでは誰もマスクをしていなかった」と証言する。



外出規制が緩和され、中国湖北省武漢市内の公園を散歩する家族＝4月4日撮影、武漢市民提供

2月8日の本欄<[新型肺炎、初動の遅れはなぜ起きた？ 武漢市長の発言を読み解く](#)>でも詳述したが、武漢市は封鎖直前の1月12～17日に「新たな（感染）増加はなし」と発表していた。18日には4万余りの世帯が料理を持ち寄って春節（旧正月）の到来を祝う恒例行事「万家宴」がにぎやかに開催された。封鎖2日前の21日夜になっても、湖北省の政財界代表が武漢市公会堂に集まって、歌や踊りの春節祝賀ステージを楽しんでいた。

だが、正しい情報は流れていた。

医大に通う女性（24）は「12月31日の夜に（原因不明の肺炎患者発生）の情報が流れてから、すぐにマスクを購入した。その後、十分な消毒薬もストックした」と明かしている。

先の民間企業勤務の女性は2019年末には「グループチャットで重症急性呼吸器症候群（SARS）に関する情報が流れていた。当初はデマだと思っていた」と後悔をにじませる。

内容や時期から武漢市の眼科医、李文亮氏が医師仲間のグループチャットに流した感染情報とみられる。李氏はデマを流したとして当局に摘発され、その後、自らも感染して死亡した。

関連記事



<浦松記者のコラム>
新型肺炎、初動の遅れはなぜ起きた？



<浦松記者のコラム>
「2億人」の不眠症 ストレス大国・中国に広がる病理>



<浦松記者のコラム>
中国版「表現の不自由」 北京・宋荘画家村を歩く>



<私を「コロナ」と呼んだ青年に言いたかったこと>



<新型コロナウイルス禍 韓国・大邱が映したグローバル化の光と影>



<「焦りと恐怖で胸がいっぱいに」 厳しい日常耐え抜いた武漢市民の思い>



<武漢市民に疑問「なぜ政府は情報開示し感染防止を呼びかけなかったのか」>

氏への深い感謝が読み取れた。

自発的に助け合う

封鎖直後のパニックは2月上旬には収束したという。寄稿の多くは、行政の支援に先駆けて、食材の集団購入など住民同士の助け合いが自発的に始まったと指摘する。

先の医大に通う女性は「封鎖当初、末端の行政組織は機能せず、住民が自発的にグループを作って業者と連絡して食材を購入していた」と説明する。さらに「私も1度だけ（地域の）ボランティア活動をしたが、手伝いにくるたくさんの人を見て温かい気持ちになった」と振り返る。

先の自営業男性も「近所同士の助け合いが大変役に立った。ウィーチャットグループで物資や感染情報を分かち合い、付き合いも増え、地域の絆が深まった」と指摘する。また「おいしいものや生活の知恵などの話題で盛り上がり、新型コロナ禍から一時逃れ、気持ちが温くなる時間を過ごせた」と振り返る。

この男性は「自発的にボランティア団体を組織する住民もいて、1人暮らしのお年寄りを支援していた。こうした連絡を取り合うウィーチャットグループは『生活必需品』の一つ」と指摘し、住民ネットワークの重要性を強調する。



外出規制が緩和された中国湖北省武漢でビルに入るために体温を測定される訪問客＝4月4日撮影、武漢市民提供

出遅れた行政と住民たちが常に対立していたわけではない。2月15日から末端の行政組織に派遣された地方政府関係者の男性（58）は「封鎖1週目は、協力してくれない住民がいた（と聞いた）」と書いているが、その後には「ある85歳のおじいさんは、長い間家にいるので外を歩きたがる。散歩の際は、私たちが1人付き添っている」と紹介する。突然の封鎖で行政不信に陥った住民が献身的な担当者に心を開いていく様子が文面からにじむ。

スクです。大変助かった」と明記した。また、感染のピークを越えた中国が韓国やイタリアを支援したことに触れて「今度は私たちが海外の人を助ける番だ。今回のことで、世界はつながっている、共に連携しなければならないと思った」と訴える。

越境するウイルスの猛威を目の当たりにして、連携することの大切さを肌で感じたのだろう。

日常を取り戻す

寄稿の多くがパニックから立ち直ったきっかけに言及している。先の大学院生の男性は「気分転換のために効果的だったのは、新型コロナウイルスに関するニュースをみる時間を1日1時間までと決めたこと。その他の時間はウイルスについて話さない。毎日の運動や勉強の時間も決めた」と紹介する。

この大学院生は「感染が急拡大した1月末から2月上旬は、デマがあふれ、焦ったり、緊張したりしやすかった。特に初期は（政府による情報）隠蔽（いんぺい）があるかもと疑っていた」という。その後、記者会見などの1次情報に直接あたり、信頼できる専門家やメディア報道を基準にすることで落ち着いたという。



青空の下で食事をする中国湖北省武漢の市民。レストランは休業しているが、持ち帰りを再開する店が出てきたという＝4月4日撮影、武漢市民提供

大学院生の母親が封鎖5日目に決めた家族の日課がユニークだ。家族3人のグループチャットに投稿された<スイートホーム 家族の約束>は以下のようなものだった。

<8時起床、朝食8時半、ランチ13時、夕食18時半、23時就寝>とここまではよくある日課だが、続いて<朝9時半から12時半、14時半から15時半はスマートフォン禁止>と禁止事項を記す。さらに個人の役割について<父

大学院生にアプリの音声通話で取材すると、「私の日課には、運動や勉強のほか、両親との家族会議が含まれていた。金融関係の企業に勤める母親から仕事について初めてじっくり聞き、どうして毎日残業で帰りが遅くなるのかといった子どものころからの疑問が解けた」と話した。

家族との生活については、大学生の女性（24）が「家庭の温かい雰囲気はより大切に思えた。料理やダンス、運動、ドラマ観賞など、普段できないことをして楽しむことで、気分転換を図った」と紹介する。小学校4年生の男児は「猫を2匹飼っており、一緒に遊ぶので退屈ではなかった。家事もたまに手伝っていた」と書く。

大学院生の女性（24）も封鎖されている間に三つのことを学んだとして「スマホやニュースをずっと見ない」「歌やダンス、料理など新しいことにチャレンジし、友人と通話やゲームをすると気持ちが楽になる」「最愛の家族に日ごろから感謝や愛の気持ちを伝えていなかったことに思い至った」とまとめている。

一方、武漢を含む湖北省各地で封鎖の影響とみられる家庭内暴力（DV）や抑うつ症状の急増が報告されている。武漢市の心理カウンセラー、杜洛君（と・めいくん）さん(49)は「感染が確認されながら入院治療を待たされている夫婦から『いつ入院できるだろうか』と何度も電話で相談された時に『とりあえず電話を切って、料理でもしたら』とアドバイスした。それが立ち直るきっかけになったようだ」と紹介してくれた。きっかけさえあれば人は立ち直れるのかもしれない。

武漢にも日常が戻りつつある。冒頭の写真は、共通の友人を持つ武漢市民からいただいた。地下鉄出口のエスカレーターを降りたところで、ハグする男女の姿が目に入ってきたという。武漢の教訓を忘れないように私も心のシャッターを切った。



次回からは新中国総局長のコラム

筆者が定期人事異動で4月下旬に帰国するため、「非常中国」は今回で終わります。次のシリーズの筆者は米村耕一・新中国総局長です。

[＜政治プレミアトップページはこちら＞](#)

関連記事

連載：非常中国

＜浦松記者のコラム＞新型肺炎、初動の遅れはなぜ起きた？

＜浦松記者のコラム＞「2億人」の不眠症 ストレス大国・中国に広がる病理＞

読者投稿

1 Timeline 文字 印刷 5

<私を「コロナ」と呼んだ青年に言いたかったこと>
<新型コロナウイルス禍 韓国・大邱が映したグローバル化の光と影>
<「焦りと恐怖で胸がいっぱいに」 厳しい日常耐え抜いた武漢市民の思い>
<武漢市民に疑念「なぜ政府は情報開示し感染防止を呼びかけなかったのか」>



前の記事
10万羽アヒル軍でバッタ退治 中国
発ニュースはデマなのか

皆さんはどう感じますか？コメントをお寄せください

投稿フォームはこちら

コメント

コメントを入力する(最大500文字)

0/500 名前(任意30文字以内) コメントを送信

人気順 ▼

no name ID: 392cf8
日本にいて外国を云々する論者の意見よりもこの種のコラムの外国の世情，大衆の観察感想のほうが一年くらい読んで数段面白く，新聞社の記者特有の観察視点がでているのかもしれない。テレビ報道ではこうはいかない。外国の世情をうかがい知る，好企画。
👍16 🗨️0 返信する ツイート 9日前

ごきげんマウス ID: 703bfa
武漢の人々の「生きようとする力」に感銘を受ける。近隣で互いに助け合い、グループを形成するあたりは見事だ。行政が頼りにならないこともあるだろうが、「互いに生きる」とは本来こういうことなのだろう。日本も田舎ではできるだろうが大都會では、互いの関係も疎遠で人も多すぎてどうなるかはわからない。一方DVなどの負の反応も。日本でもこれらは既に報道されている。人間とは不思議なものだ。本来は互いに助け合うことで生 ... [続きを読む](#)
👍14 🗨️2 返信する ツイート 10日前

かまきり ID: 7ba712
他人事、他の国のことと片付けてはいけない。お互い様の気持ちを皆がもって、暖かい関係を築くことが大事だと感じました。
👍5 🗨️0 返信する ツイート 7日前

安倍政権ではコロナ対策は無理 ID: 933a09
感染症の伝播の仕方を知らない人達の集まりである安倍政権がコロナを自らの政策の制御下におくことはできないでしょう。1人の感染者がd日感染して（死亡、隔離、回復によって）1日あたりにr人に感染させれば、rd人の人が感染することになります。rdを1以下にすれば収束します。死亡率yとし、死亡までの日数をzとし、回復にかかる平均日数をd1とし、隔離される確率をxとし隔離されるまでの平均日数をd2とすれば、(... [続きを読む](#)
👍7 🗨️1 返信する ツイート 7日前

50代おばちゃん ID: d828f3
一日中政府の動きや新しい情報を追いかけてながら、どうしたら良いのか思案していました。
勿体ない時間を過ごしていたとなかば気づきながら変えることが出来ずにいました。
ありがとうございます、とてもいい記事です。
周りの方にも読んで頂きたく、拡散しました。
👍4 🗨️0 返信する ツイート 8日前

Powered by ユーザーローカルAIコメント

※投稿は[利用規約](#)に同意したものとみなします。

浦松丈二

読者投稿

1 [Timeline](#) 文字 印刷 5

字。中国総局（北京）、アジア総局（ハノイ）で計12年勤務。現在は中国語圏の若者カルチャー、文化交流などを取材している。

注目コンテンツ

アクセスランキング

新型肺炎、初動の遅れはなぜ起きた？ 武漢市長の発言を読… [📰 政治](#)

10万羽アヒル軍でバツタ退治 中国発ニュースはデマなのか [📰 政治](#)

ウイルスは国籍も人も選ばない 台湾が空白のWHOは不完全 [📰 政治](#)

新型コロナ禍の中国で急展開する「非接触サービス」 [📰 経済](#)

習主席主導「ハイテク拠点・武漢」 新型肺炎でどうなる [📰 経済](#)

新型コロナ「疑心暗鬼の排除」に政府がやるべきこと [📰 経済](#)

新型コロナ 発生源「武漢の研究所説」調査 米メディア報道 [🔒](#)

新型コロナ 武漢のホテル苦境 部屋無料提供、経営に打撃 [🔒](#)

新型コロナ 武漢死者数訂正、1.5倍に 中国当局「報告…」 [🔒](#)

新型コロナ 症状の一つに結膜炎 [📰 医療](#)

新型コロナウイルス 「5分の知識」で差別を防ぐ [📰 医療](#)

新型コロナウイルス 広がるいわれなき差別 [📰 医療](#)

1日

1週間

1

二つの非常識

2

新型コロナウイルスが影を落とす北朝鮮の対米戦略

3

新型コロナ 世界的危機のなかで「正しい自粛」いつまで続けるか

4

「天才大臣」だけでない台湾の強さとは何か

5

「6月に消費税0%」で令和の恐慌を防ぐ

powered by **piano**

あなたにオススメ（レコメンドシステムによる記事選択）

- 韓国の感染拡大、新興教団の「刈り入れ屋」って？ | オアシスのとんぼ | 澤田克己
- 緊急事態宣言で支持率が上がる若年層にも広がる不安・不満 | 声なき声を捕捉せよ | 平田崇浩
- 「ヨーグルトやめる人が増えてる理由」腸をスッキリさせる食べ物が話題 (PR) フローラ健康科学研究所

新型コロナ 世界的危機のなかで
「正しい自粛」いつまで続けるか
| 浅尾慶一郎「将来を語る」 | ...

この新しいWi-Fi Boosterで、自宅のインターネットをさらに改善？

(PR) WifiBooster on テクノロジー

部外者は立ち入り禁止！ハワイの禁じられた島とは？

(PR) PostFun

古い丸太小屋を100ドルで購入、誰もうらやむ家に変身

(PR) PostFun

ダムのためには、家から人を引きずり出す「犠牲」が必要か || 初鹿明博

韓国の感染症対策に見るリスクコミュニケーション | オアシスのとんぼ | 澤田克己



老眼鏡とサヨナラ!? 「ロート製薬」が作った目のサプリメントがすごい

(PR) ロート製薬



不十分で遅きに失した経済対策 呈してきた「政権末期」の様相 || 大串博志



「政権」を知らなかった民主党1年生のつもりで始める | 子年に聞く | 鉢呂吉雄



遅すぎた「緊急事態宣言」 危機感の共有と丁寧な説明がパニックを防ぐ || 古川元久



二つの非常識 || 森永卓郎



ウソみたい！グルコサミンを超えたのは新軟骨成分、プロテオグリカンでした

(PR) ダイドードリンク